

(電子メール施行)
農技第1467号
令和4年8月12日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和4年度病害虫発生予察注意報 第1号を発表します。

果樹カメムシ類のフェロモントラップおよび予察灯において平年を大幅に上回る誘殺が確認されています。果樹園での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

令和4年度病害虫発生予察注意報 第1号

果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について

- | | |
|--------|--|
| 1 対象作物 | 果樹類 (特にナシ、カンキツ、カキ) |
| 2 病害虫名 | 果樹カメムシ類
(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 8月中旬～9月下旬 |

6 発生状況について

(1) 一般的に、果樹カメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生の多い表年に該当する。本年は、例年に比べて早い6月中旬以降から越冬世代成虫の活動が盛んとなっており、発生予察防除情報第3号を7月8日に発表し、注意喚起を行ってきた。

(2) その後もフェロモントラップおよび予察灯において、表年の平均を上回る誘殺が認められている。特に誘殺数が多い朝来市では、チャバネアオカメムシの7月の合計誘殺数は、フェロモントラップで1547頭(表年の過去4年分*平均334.2頭)、予察灯で432頭(同6年分平均225.2頭)と、表年の平均より極めて多い状況にある(図1)。

加西市においても、チャバネアオカメムシの7月の合計誘殺数は、フェロモントラップで657頭(表年の過去6年分平均369.2頭)、予察灯で25頭(同平均10.1頭)と、表年の平均より多い(図2)。

(3) 朝来市に設置している予察灯におけるツヤアオカメムシの7月の合計誘殺数は、81頭(表年の過去6年分平均17.7頭)と表年の平均より多い(図3左)。クサギカメムシの7月の合計誘殺数も156頭(同平均78.0頭)と、表年の平均より多い(図3右)。

7 今後の発生予想について

- (1) 今後、越冬世代成虫に加えて、新成虫が発生し、密度が高まる時期となる。そのため、収穫期まで成虫が断続的に飛来し、加害期間が長期化する恐れがある。
- (2) 大阪管区気象台の近畿地方の1ヵ月予報(8月4日発表)によると、気温は平年より高く、降水量は少なく推移するとされており、果樹カメムシ類の活動に好適な条件が続くと予想される。

8 防除上の留意点

- (1) 果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに薬剤による防除を行う。山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、特に注意する。
- (2) ナシでは袋をかけていても、袋と果実が接している部分は外部から吸汁を受けやすい。多発時には思いがけず被害果が増えるおそれがあるため、収穫期まで油断せずに注意する。
- (3) 果樹カメムシ類は夜間を中心に活動するため、薬剤散布は夕方に行うと効果が高い。また、移動性が高いため、薬剤散布は広域的に一斉に実施し、地域全体の密度を下げるのが望ましい。
- (4) 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

なお、合成ピレスロイド剤は効果が高く残効も期待できるが、天敵昆虫に対する影響が強く、ハダニ類など他害虫を誘発するおそれがあるため、使用にあたっては他の害虫の発生状況も十分に考慮する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>



写真 果樹カメムシ類成虫

(左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

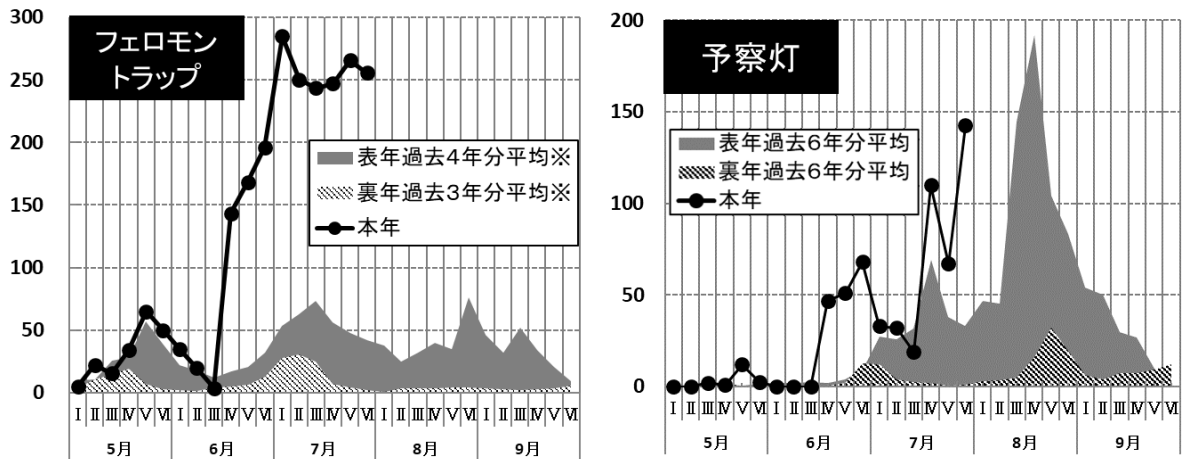


図1 フェロモントラップと予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(朝来市)
 ※朝来市のフェロモントラップは過去7年分しか調査データがない。

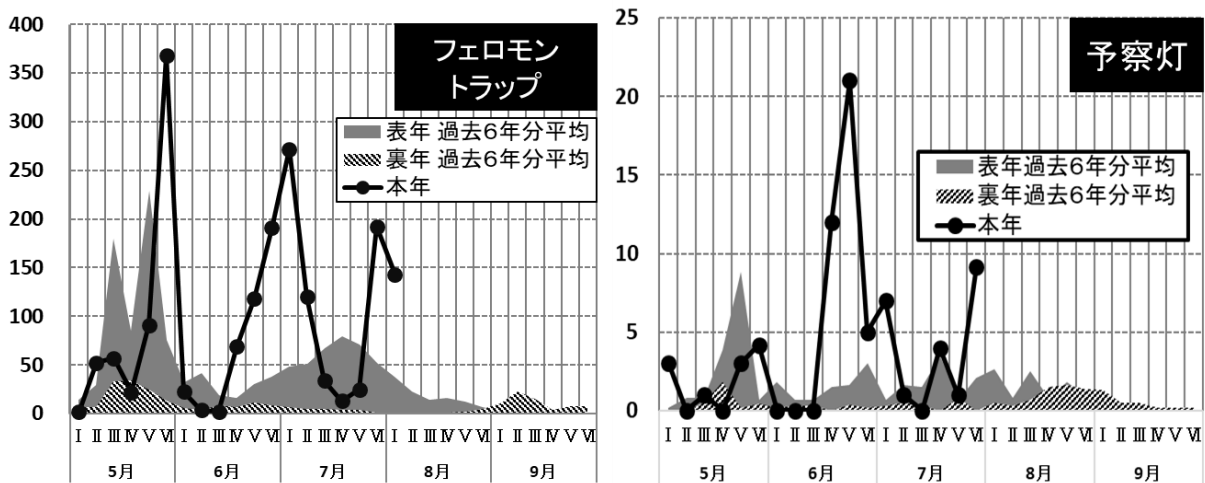


図2 フェロモントラップと予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(加西市)

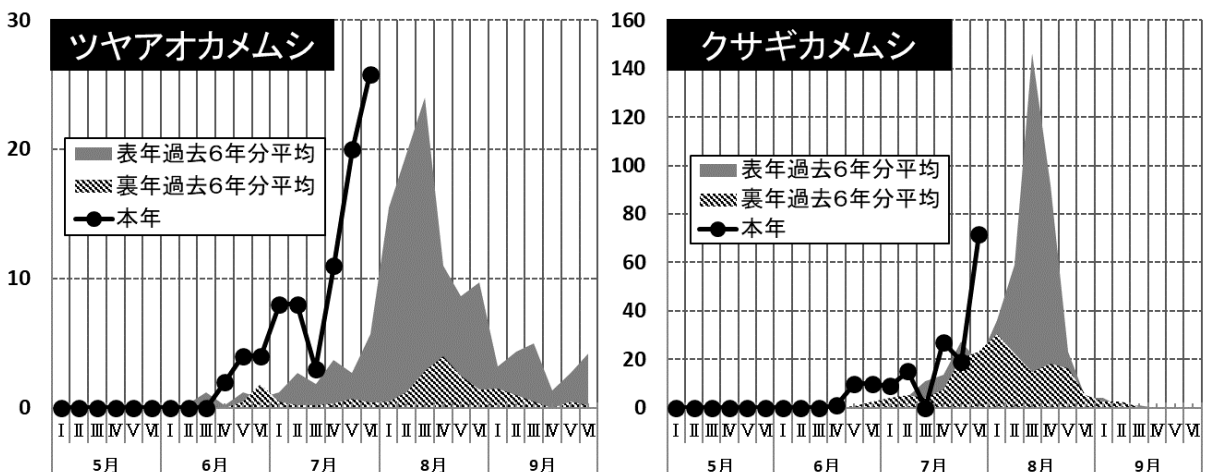


図3 予察灯におけるツヤアオカメムシとクサギカメムシの誘殺数の推移(朝来市)

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。
[\(http://hyogo-nourinsuisangc.jp/\)](http://hyogo-nourinsuisangc.jp/)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222